

教員養成セミナー10月号
動画講義

12カ月完成
教職・一般教養
パワーアップノート

◆第1回◆教育原理①－A

I. 学習指導要領の性格と変遷

講師：大西 圭介

テーマ1

学習指導要領の性格

テーマ1

学習指導要領とは

学習指導要領には**法的拘束力**がある。

学習指導要領とは、**教育課程の基準を大綱的**に定めるもの。
それによって、教育水準を全国的に確保しようとしている。

学習指導要領には、教科等の目標や大まかな教育内容が**告示**
として定められており、
学校教育法施行規則では、年間の**標準授業時数等**が定められて
いる。

学習指導要領や年間の標準授業時間数を踏まえて、
カリキュラムを編成することが**各学校**に求められている。

テーマ1

前文によると

ここでの理念とは、
教育基本法第1条（教育の目的）と
第2条（教育の目標）と
社会に開かれた教育課程を指している。

学習指導要領とは、こうした理念の実現に向けて必要となる教育課程の基準を大綱的に定めるものである。学習指導要領が果たす役割の一つは、公の性質を有する学校における教育水準を全国的に確保することである。また、各学校がその特色を生かして創意工夫を重ね、長年にわたり積み重ねられてきた教育実践や学術研究の蓄積を生かしながら、児童(生徒)や地域の現状や課題を捉え、家庭や地域社会と協力して、学習指導要領を踏まえた教育活動の更なる充実を図っていくことも重要である。

平成29・30年版学習指導要領の特徴

教育課程は学校が定めるものとあるように、これまでの教育は学校にのみ任せられており、学校が閉じられた環境であったという認識が見受けられる。

今後も**教育課程は学校が定める**ものであるし、地域の実情を踏まえることも以前と大きく変わるものではない。

しかしながら、「**社会に開かれた教育課程**」がキーワードとなっているように、全ての大人たちが協働して子どもを育てることが目指されるようになったことには注意しておきたい。

テーマ2

学習指導要領の変遷

学習指導要領の変遷—昭和時代①—

改訂年	特徴	背景等
1947 (昭和22)年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 試案という位置づけで出された最初の学習指導要領。 ・ 経験主義的な学習を重視。 ・ 「修身(公民)」「日本歴史」「地理」を廃止。 ・ 「社会科」「家庭科」「自由研究」の新設。 ・ 法的拘束力はない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ アメリカの「コース・オブ・スタディ」を範として作成された。 ・ デューイの経験主義的な特徴を持つ。 ・ 左記の廃止された教科は、精神的な面を支えた「修身」、天皇家の神話性を高めようとする歴史観侵略した中国や韓国などを国土に含めていた地理の3つであり、戦争に導いたとされるものであった。 ・ 新設された教科は、戦後の理念を反映しており、特に「家庭科」は男女共修のために創設された。
1958・60 (昭和33・35)年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 試案ではなく、教育課程の基準として「告示」されるようになり、法的拘束力が明確化された。 ・ 系統主義的な学習を重視。 ・ 基礎学力の充実を図るために国語、算数の内容の再検討と授業時数の増加。 ・ 科学技術教育の向上を図るための算数、理科の充実。 ・ 「道徳の時間」の特設。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主権回復後の日本で初めての学習指導要領の改訂 ・ 経験主義的な教育によって、学力が低下・偏向しているとの批判があり、系統主義的な学習を重視するように。 ・ 法的拘束力をもたせることによって戦前のような国の管理の復活を想起させ、道徳の時間を特設したことで、修身の復活だという批判が出た。

学習指導要領の変遷—昭和時代②—

改訂年	特徴	背景
1968・69・70 (昭和43・44・45)年	<ul style="list-style-type: none"> ・理数系科目を中心に科学の発展に対応した教育を重視。 ・「教育内容の現代化」がキーワード。 ・教育内容・授業時数がともに増加し、量的に最も多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・戦後復興・高度経済成長により、経済大国としての発展を経験し、科学の発展に対応しようと理数系科目を中心に教育内容を見直した。また、理数系科目を中心としたのは、スプートニク・ショックの影響も大きい。
1977・78 (昭和52・53)年	<ul style="list-style-type: none"> ・いわゆる「ゆとり重視」（ゆとりのある充実した学校生活を送れるようにすること）への転換。 ・ゆとりを実現するために、学習指導要領を大綱化させる。 ・教科内容の精選と授業時数の削減。 ・学校裁量時間(ゆとりの時間)の新設。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1958年版学習指導要領から系統的学習が開始されたが、受験競争の激化と学校教育が知識の伝達に偏ると批判され、「詰め込み教育」と言われるようになっていた。 ・知・徳・体の調和の取れた発達を目指した。

学習指導要領の変遷ー平成時代①ー

改訂年	特徴	背景
1989 (平成元)年	<ul style="list-style-type: none"> ゆとり教育の継承。 思考力、判断力、表現力等を育もうとする「新しい学力観」の提示。 個性尊重の教育。 小学校低学年に「生活科」の新設。 高等学校の社会科を、「地理歴史」と「公民科」に再編 「世界史」の必修化。 入学式、卒業式などでの国旗・国歌の取り扱いの明確化 	<ul style="list-style-type: none"> 1980年代は、いじめ・不登校・暴力行為が社会問題化していた。 経済発展、科学技術の進歩、高齢化など社会のあり方の変化にも注目が集まる。 今後の社会を見据えて自主的に学ぶこと、個性を尊重することが求められた。
1998・1999 (平成10・11)年	<ul style="list-style-type: none"> ゆとり教育の継承。 完全学校週5日制の全面実施。 「生きる力」を培うことがねらいに。 小学校3年生以上に「総合的な学習の時間」の新設。 中学校・高等学校の「特別活動」で「クラブ活動」を廃止。 	<ul style="list-style-type: none"> これからの時代を生きるために「生きる力」を育むことが目指された。 完全学校週5日制を実施し、教育内容の厳選、授業時数の削減が行われた 基礎基本の習得と、教え込みではない授業方法の採用、特色ある学校づくりが求められた。

学習指導要領の変遷ー平成時代②ー

改訂年	特徴	背景等
<p>2008・2009 (平成20・21)年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「生きる力」という理念の継承 ・基礎的・基本的な知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視。 ・小学校高学年における「外国語活動」の新設。 ・「総合的な学習の時間」の時間数削減。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆとりか詰め込みかではなく、バランスを取ることを大切に。 ・2006年改正の教育基本法を踏まえた改訂。
<p>2017・ 2018・2019 (平成29・30・ 31)年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「社会に開かれた教育課程」、「カリキュラム・マネジメント」、「主体的・対話的で深い学び」をキーワードとする。 ・「何ができるようになるか」を重視。 ・前文の新設。 ・小学校高学年に「外国語科」の新設 ・プログラミング教育 	<ul style="list-style-type: none"> ・2008・2009(平成20・21)年版の学習指導要領の理念を継承しつつ、より一層確実な知識の習得を目指す。 ・生産年齢人口の減少、グローバル化の進展、AIの発達等により、社会構造や雇用環境が変化する予測が困難な時代への対応が必要に。